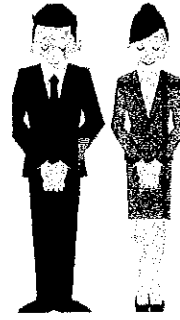


こたまたま

日頃は、コミュニケーション活動に、多大なご協力・参加を賜り厚く御礼申し上げます。



〈お願い〉

引き続き、コロナウイルス感染予防のため、3密（密閉・密集・密接）を避け手洗いと手指消毒・マスクを着用し換気に注意してご利用していただきますようお願い致します。

プレミアム付き商品券の販売

13,000円分を10,000円で販売!!

〈日時〉7月12日（火） 午前9時～正午

〈場所〉九鬼コミュニティーセンター

※ 条件に該当する市民一人当たり2枚の購入引換券を送付しますので利用する場合は、所定の引換販売場所で購入して下さい。

第48号（2022年7月）  
発行 九鬼コミュニティーセンター  
電話 0597-29-2164



九鬼の  
おもしる  
歴史

九鬼の生立ちとは？

九鬼の二号荒見小屋へ行く途中に「古田」と呼ばれる場所があるのは御存知だと思えます。そこは、かつて平家の落人が暮らしていた跡だと聞いたことがあります。その痕跡は石垣の跡からもうかがわれ、田畑に適した平地もあり、海岸へも出られます。九鬼の部落とは当初（落人の部落とは当初）行き来は、なおよさら）行きたは、なく、隔絶されていたのだと考えられます。（源氏の時代も終わり、嘉隆らの時代には武士であったことが理を得たのでは？）

住んだのではないかと考えられます。（但し、古田の人達とは行き来が無かったのではないかと？）「古田」の方は海岸（船で海から）に上陸して、住み着き、「田垣内」は八鬼山を超えて、川沿いに降りた先が九鬼の部落から山一つ隔た田垣内で有ったのではないかと？

証拠になるかも知れないのは、九鬼の墓地に平家方の紋章である「揚羽」の紋を刻んだ墓石が数石、存在していることと、寺の過去帳が残って居ればこのことも解明できたのかもしれないが、江戸後期からの物しか残っていない（御存知のことですが、寺の火事でそれ以前の書き物は現存していません）

【田垣内】にも時期は解りませんが源氏方の人が住んでいたと言う人もいます。田垣内も九鬼の部落とは山一つ隔っており、こっそり移り

ただ、私達にも藤原方・平家方・源氏かたの血が入っているのではと考えると、九鬼への見方が変わってくるかと？

平家方の紋章



源氏方の紋章

